



中核地域生活支援センター 大会 in2020

動画配信が行われました!!



今年度の中核地域生活支援センター大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、撮影した映像をYouTubeで公開するという新たな方法で行われました。

テーマは『ボくらが創る～地域共生社会へ～』。これまでの制度・分野ごとの『縦割り』や『支え手』『受け手』という関係を超えて、人と人・人と資源が分野を超えてつながり、地域を共に作っていく地域共生社会とはどういったものなのかを様々な視点から考え、私たちは何ができるのかを考える機会となりました。

実践報告では、『ITSUMO』の竹嶋信洋氏、『コミュニケーションセンター～Mado-ka～』の井上創氏、『すぶりば』の大塚歩氏から地域住民や当事者、支援者という枠を超えた居場所づくりや

活動についての報告があり、後半の鼎談では早稲田大学法学学術院教授の菊池馨実氏、植草学園大学副学長・教授の野澤和弘氏、中核地域生活支援センター連絡協議会会長の渋沢茂氏から地域共生社会のあり方や求められる支援についてお話を頂きました。

鼎談の中で、菊池先生から「これまでの給付中心の社会保障だけでは限界がある。いかに社会的排除や孤立といった問題を克服し、社会とのつながりを結びなおすかが大切であり、そこに相談支援固有の必要性がある」というお話がありました。私たち中核地域生活支援センターは、地域の中で困りごとを抱えていても支援を求めることが難しい方々へのアプローチを関係機関とともにさらに深めていく必要があると感じた大会となりました。

— インタビュー — INTERVIEW

『月刊福祉』1月号において、特集「どうつくる、包括的支援体制」と題し、いちほら生活相談サポートセンターの大戸センター長の参加した座談会の様子が掲載されました。吉沢学園編集部では、大戸センター長には、座談会の主題であった地域共生社会について、また、荒原主任相談支援員には、日頃の相談業務についてインタビューを行いました。

Q：地域共生社会について、概要の説明をお願いします。



大戸：今の日本は、地縁、血縁、社縁といった地域や社会の繋がりが薄くなり、生活する上での煩わしさが少なくなった一方で、地域や社会から支えてもらう場面が減り、安心して生活できる環境

も減ってしまっているのではないのでしょうか？地域でのつながりを、もう一度昔に戻すのではなく、違った形で支え合おうとする取り組みが、地域共生社会に向けた動きです。「支える側」「支えられる側」と立場を固定するのではなく、ある時は支えられ、ある時は支えるという相互関係を紡いでいくことが大事な視点です。

Q：日頃相談業務に携わり、相談者様と信頼関係を構築する上で注意している点などあったら教えてください。



荒原：相談の中には「借金」や「ひきこもり」など社会的にマイナスのイメージをもたれてしまうキーワードが数多く出てきます。しかし、支援者側の価値観で批判や追及ばかりをしては信頼関係は築けません。目的は、相談者の方を批評することではなく、生活を立て直していくことです。

先日、外国籍の方から「お金がなくて困っている」という相談を受けました。話を聞いていくと母国にいる家族への仕送りが生活を圧迫していることが分かりました。つい「仕送りなんかやめて自分たちの生活を優先したほうがいい」と言ってしまいそうですが、相談者の方にとって大切なことを、理解せず頭ごなしに否定してしまったら「もう2度と相談なんか行くか」となってしまいます。まずは、気持ちを受け止めて信頼関係を築くことが、解決に向けた第一歩だと思っています。

取材を終えて
新型コロナウイルスの影響で相談件数が増える中、大戸センター長、荒原主任相談支援員には貴重な時間を割いて頂き、インタビューを受けて頂きました。ご協力ありがとうございました。インタビューでもあった通り、今後自分たちの強みと自分たちに出来る事を見つけ、地域共生社会に向けた地域づくりに取り組んで行きたいです。

障害者グループホーム等支援事業（千葉県委託事業）

第12回千葉県障害者グループホーム大会開催！

例年、千葉県教育会館で開催をしておりましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、Youtubeでの動画配信を行いました。

自宅や職場で動画を視聴できるということもあり、千葉県内外から466名のお申し込みがありました。

グループホーム（以下GH）の制度創設から32年目となり、全国のGH入居者数は障害者支援施設入所者数を超えました。「誰もがありのままに、その人らしく暮らす家」として、GHに出来ることは何かを基調講演や分科会を通じて考える機会となりました。



TABI Café

パン工房 & 日中作業で紙袋作り

TABI Café もオープンして約一年が経ち、口コミ等で少しずつお客様も増え、現在地域の憩いの場所となっています。

その中で人気に一役買っているのが、焼きたての「手作りパン」です。季節に合わせた様々な種類のパンがお店を賑やかにしてくれています。

ベテランのパン職人に教えてもらいながらスタートしてきましたが、今ではできる工程も増え、日々奮闘しています。



また、買い物をしていただいた時に活躍しているのが、手提げ紙袋です。「マイバッグを忘れた方に…」と始めた紙袋の配布ですが、「かわいいから」と繰り返し使ってくれるお客様もいるほどの人気となりました。雨の日の作業としてスタートしましたが、「欲しい」というお客様が増えたため今では日中の作業の一部になっています。

利用者の皆さんも直接お客様に手に取ってもらう事で「うれしい」「頑張ってる」とやる気につながっています。



新鮮野菜が大好評!!



TABI Caféでは、地域の野菜を販売するコーナーを常設しております。近くの農家や家庭菜園をされている方が出品される、野菜、果物、山菜が店に並びます。

今回は生産者の清水和能さんを紹介します。一年を通して野菜や果物、山菜を出品してくれています。私のおすすめは、フレッシュなブルーベリーです。そのままでも十分おいしいですが、ソースやジャムにすると格別です。

今日は筍、わらび、ごごみ等の山菜の他、朝採れのブロッコリーをお持ちいただきました。これから玉ねぎやインゲン、初夏にはそら豆、ニンジン、ナスやトマトが順に出荷予定です。ブルーベリーは6月中旬頃に出てきます。

新鮮でおいしく安いお野菜をTABI Caféで……

(店長：瀧田)



ジョブハウス・もみの木



ジョブハウス・もみの木では、移動販売で回っている施設、企業の従業員の方を対象とした、お弁当のデリバリーサービスを始めました。お弁当の種類は、デミグラスハンバーグ弁当、和風ハンバーグ弁当、焼き鳥丼の3種類。サイドメニューとして、カップサラダとコーヒーゼリーも用意しています。「もみの木のランチが気になっていたけど、お店に行く機会がなかなかなくて……」という方からの注文もあり、デリバリーサービスは好評です。これからも、地域の皆さまに寄り添ったサービスの提供を目指して行きたいと思っております。

浅井小向デイサービスえん

(地域密着型通所介護事業)

浅井小向デイサービスえんは、2月に恒例の節分会をおこない、赤鬼チームと青鬼チームに分かれ、お手玉入れのゲームを楽しみました。スタッフと共に「鬼は外!福は内!」と、声をかけながら、鬼の顔を目掛けて、お手玉を投げ入れる様子は、勇ましくスタッフの歓声にも力が入ります。終了後は、手指をしっかりと消毒をしてスタッフ手作りのふっくらとした柔らかい大豆の煮豆を召し上がり、楽しそうな皆さまの笑顔が印象的でした。



学園イベント

吉沢大運動会



コロナ禍において、例年行われていたイベントが全て中止となった為、10月20日、当施設の体育館にて「吉沢大運動会」と称した運動会を開催しました。紅白に分かれ、玉入れやリレー、パン食い競争等の競技を行い、みんな真剣ながらも楽しそうに参加しており、普段とは違う利用者さんの様々な表情が見られました。終始楽しそうに笑顔で競技に参加しており、非常に充実した1日となりました。

ハロウィン(調理実習)



コロナ禍で行事が次々と中止となり、何か楽しいイベントを企画したいという職員の思いから、ハロウィンパーティーを開催しました。たこ焼き器で沢山のベビーカステラを焼き「ベビーカステラタワー」を作り、ハロウィン風にデコレーション♡仮装して「ベビーカステラタワー」の前で撮影会を行いました。撮影会の後、みんなでベビーカステラを美味しくいただき、利用者の皆さん満面の笑顔で楽しんでいました。

初詣



吉沢学園の近くにある神社、國常立神社(妙見神社)へ初詣に行きました。神社に向かう途中、「今年はみんなで夏祭りがやりたいね」や「運動会に行きたいね」などの利用者さんの言葉に、改めて我慢の一年であったことを思い知りました。神社では無事に新年を迎えられたことの感謝と共に、コロナ禍の終息をみんなで祈願しました。

「利用者さんにとって、より楽しい一年を!」と心に誓う、年の初めとなりました。

BBQ



晴天のもと1、2棟合同でBBQ会をしました。いつもは室内での調理実習ですが、コロナ禍で室内にいる事も多かったので、外でもおもいっきり楽しもうと思い企画しました。利用者さんに食材切りや皮むきなどを手伝ってもらい、職員が食材を焼いていきます。美味しく焼けるように一生懸命頑張りました。利用者さん職員ともに満面の笑顔でBBQを楽しみ、コロナで大変なこの時だからこそ工夫をしながら楽しむということの大切さに気付かされました。

収穫祭



11月14日、晴天の中で収穫祭を開催しました。利用者さんには菌床椎茸を収穫するグループと柚子を収穫するグループとに分かれて収穫に参加してもらいました。皆さん夢中で収穫をしてくれカゴ一杯に取ることができ、とても嬉しそうな表情を見せてくれました。収穫後グラウンドに戻り、事前に収穫したさつまいもと今回収穫した柚子を使って厨房さんが作ってくれた柚子ゼリーとふかし芋を頬張りながら楽しい時間を過ごす事が出来ました。

学園トピックス

地域奉仕



地域の美化活動の一環として吉沢地区のゴミ拾いを行いました。朝から頑張っ

てみると地域の皆さんから「お疲れ様」と声をかけて頂き、利用者さんも笑顔で手を振り、応えていました。これからも地域活動に積極的に参加し、地域の美化活動に努めていきたいと思っています。

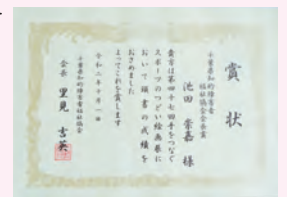
池田 崇嘉さん入賞



『第47回手をつなぐスポーツのつどい絵画展』において、池田崇嘉さんの作品が【千葉県知的障害者福祉協会会長賞】に入賞しました。

東京オリンピックで新競技として採用される「サーフィン」を題材とし、

池田さんの得意な貼り絵でサーフィンをしている人を制作しました。背景の波は、支援員と協力して、ダイナミックな波を表現することが出来ました。



森田さん成人祝い



吉沢学園では今年、森田大樹さんが新成人を迎えました。新型コロナウイルスの影響で成人式が中止とな

ったため、3棟の利用者さんと職員と

で森田さんの成人をお祝いしました。真新しいスーツに身を包み、少し緊張気味の森田さんでしたが、他の利用者さんから「おめでとう!」「カッコいい!」と歓声が沸き起こると、照れ笑いを浮かべました。職員からお祝いの色紙とバルーンアートの花束を贈られると、満面の笑顔で大喜び。ささやかながら心温まる「手作り成人式」となりました。

ユンボ購入



後方超小旋回ミニショベル（ヤンマー Vio17）が吉沢学園にやってきました。

出勤の機会は少ない方が良いのですが、積雪や災害

などの際には学園や吉沢地区の為に活躍できるよう、新規購入し早速、学園内の作業場等の整備に一役買ってもらっています。



感染対策



新型コロナウイルス感染防止対策として職員だけでなく利用者さんにも協力をして頂き、棟内の感染対策をしています。主には手洗いをまめに行い、感染対策をしています。また利用者さんにも職員と一緒に消毒も手伝っていただいたりと全員で感染対策に勤しんでおります。これからも引き続き気を引き締めて感染防止対策を頑張っていきます。



グループホーム



クリスマス会



コロナの影響で例年とは異なり、コロナ対策を行いながら各グループホームでのクリスマス会となりました。この日の為に花館・桜館・葵館それぞれ踊りや歌を練習し、お互いに皆の前で披露し、ホームパーティーのように和やかなクリスマス会を行いました。

職員も踊りや歌を覚えて参加したのですが、何よりも女性グループホームの方全員が歌と踊りをマスターしていたことには驚きと感動を受けました。利用者さんの「楽しかったね」「料理美味しかったね」という笑顔が見られ、いつもと違うクリスマス会でしたが、楽しんで行うことができました。

ロボット等導入支援

令和2年度千葉県ロボット等導入支援事業補助金により導入したマッスルスーツ、コールマット、床走行リフトの装着・使用方法についての講習を受けました。実際にマッスルスーツを装着すると、腰・太もも・肩・でん部を支点として空気圧がかかり介助する際に腰への負荷が軽減される画期的なものであると感動しました。



ベッドから車椅子・車椅子からベッドへ移乗する床走行リフトの被介護者として体験をしましたがスリングシートは包まれているようで安心感があり、リフトで移乗する際には少し揺れる程度で特に恐怖を感じる事はありませんでした。

希望の家うしく壱番館増改築

希望の家うしく壱番館の増改築工事がほぼ完成。4月からは今まで5名の入居者のところ、1室増やし、定員6名となります。改築場所は、今までお風呂は2階のみでしたが、1階にもお風呂と洗濯室、トイレを設置して広くなりました。



ジョイサポート三和

クリスマス会



今年度初の大きなイベントのクリスマス会が12月18日にありました。コロナ禍のため、生活介護、就労Bの各事業所での開催となりました。事前撮影、当日放映という初の試みの中、就労では職員の手作りの衣装に身を包みダンス披露。介護は演技力とダンスにも力を入れ動画撮影しました。

本番当日は就労職員のコスプレや動画放映により、楽しい時間を過ごす事が出来ました。チキンやケーキを食べ、皆笑顔で素敵な会となりました。



節分



今年は124年ぶりに2月2日が節分ということで、ジョイサポート三和でもこの日に節分会を行いました。

コロナ禍の中、鬼も利用者さんとのソーシャルディスタンスを守り中庭に登場。介護、就労の利用者さんはそれぞれ中庭に面した通路に並び、離れた場所にいる鬼に向かって豆を撒きました。

皆、疫病退散とばかりに鬼に向かって力強く豆を投げつけ、節分会は幕を閉じました。

来年は、いつも通りの節分が行えることを皆が望んだ一日でした。

寄付

保護者会より、余暇活動等の充実のためプロジェクターとカラオケ機を頂きました。

ありがとうございました。大切に使います。



こどもステーション三和

こどもステーション三和では、毎年近隣保育所を招き皆で仮装して、ちょっとしたプレゼントを用意していましたが、今年度はコロナ禍ということもあり、近隣保育所は呼ばずに所内にてハロウィンイベントをしました。

また当日は部署ごとに仮装してカボチャを的にしたポツチャを行いました。各々仮装を楽しみ、更にポツチャの優勝者には可愛くラッピングされたカボチャの的のプレゼントもありました。

参加した皆さんにかぼちゃプリンデザートも振る舞われ、大いに盛り上がりました。



児童発達支援事業&放課後等デイサービス

こどもステーション東国分寺台



12月24日(木) 毎年恒例のクリスマス会を行いました。行事を計画していた頃は、新型コロナウイルスの感染状況が小康状態だったため、『もみの木』での食事会を予定していましたが、12月に入り感染拡大となったため、事業所で行うことにしました。

『もみの木』のテイクアウトに変更し、お弁当を用意していただきました。クリスマスらしい飾りつけに子供たちも職員も「かわいい!」「おいしそう!」と歓声をあげていました。

おいしい食事をいただき、ゲームを楽しみ、サンタさんからのプレゼントを嬉しそうに受け取る子供たちの様子に、心和む一日となりました。



こどもステーション牛久

東京ドイツ村へみかん狩りに行ってきました。久しぶりの外出にワクワク、ソワソワ。みかん畑までの急な上り坂も足取りは軽く、小さなお友達も自力で移動できました。「あったよ」「こっちにいっぱいあるー」と嬉しそうな子ども達。みかんを食べた事がなかった子もパクリ!みんな3、4個食べました。

午後からの短時間、三密を避け、消毒、マスク着用と感染対策をしながらの外出でしたが、子ども達の生き生きとした表情を見るのができ良かったです。



こどもステーション菊間



「鬼は外〜!」「福は内〜!」子供達の元気な声が菊間に響きました!!

折り紙で作った杓を持ち、鬼を退治!
鬼役の子は「青鬼〜」「赤鬼〜」と何色の鬼になろうかな?

好きな色を決めて鬼のパンツを履いて逃げ回り、それを追って豆を投げる子…

自分の中の泣き虫鬼や怒りんぼ鬼も一緒に退治、おりこう鬼はそのまま♪

歳の数だけお豆を食べて1年元気に過ごせますように〜忘れちゃいけない!コロナも一緒に撃退するぞー!!

編集後記

新型コロナウイルスが流行して2度目の春を迎えました。当法人では職員と利用者さんが協力し感染対策に取り組んでいます。新しい生活形態の中で、利用者さんが穏やかに過ごす事が出来る環境づくりを法人全体でサポートしてまいります。

しっかり手洗!

